

数理・データサイエンス・AI教育プログラム自己点検評価報告(令和4年度)

大学教育実践センター

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本学の修学支援システム UniversalPassport や Microsoft Teams 等を活用し、授業担当教員は履修者ごとの講義出席状況及び課題の提出状況を把握することが出来る。</p> <p>また、チューター制度により、出席状況が思わしくない学生や、本プログラムの構成科目であり、全学必修科目である「ICTリテラシーI」の単位を修得できなかった学生に対し、学期ごとの履修面談で履修を促している。</p>
学修成果	<p>本学で開講しているすべての科目において、各学期終了時に「学生による授業評価アンケート」を実施している。この評価項目の中には、授業外学修、学修活動への支援の程度、授業目標の達成度等が含まれており、この結果から学生の理解度を分析している。</p> <p>また、この授業評価アンケートを教員にフィードバックすることで、授業の改善を図り、教育効果を高めている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>上記の「学生による授業評価アンケート」において、「この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につく。」「この授業の内容に関してさらに学びたい。」の質問項目の評価から学生の理解度を確認することができる。このデータを数理・データサイエンス・AI教育プログラムの構成科目の授業内容を改善するための参考とし、毎年の授業の改善・更新の検討材料としている。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>各教員は、「学生による授業評価アンケート」のフィードバックを受けて、授業改善(コメント作成)を行っている。そして、授業アンケートの全体集計や教員のコメントを基に作成した報告書『「学生による授業評価」の概要』を毎年HPに公開している。この報告書においては、当該科目を管轄する主任教員の総括コメント(現状分析や今後の課題など)が掲載されている。学生は、HP上のこれらの情報にアクセスして、履修登録の際の参考とすることができる。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本教育プログラムを構成する科目「ICTリテラシーI」については全学必修科目であり、基礎を全学生に履修させることで、数理・データサイエンス・AI教育の導入教育を行い、その上位科目の「ICTリテラシーII」や関連科目の「統計入門」の履修につなげることができる。実際に、「ICTリテラシーI」</p>

		を受講した学生の 83%が「ICT リテラシーⅡ」を受講している。
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		本教育プログラムの履修者の修了生はまだいないが、本学のキャリアセンターにおいて、学生の就職先調査を毎年行っており、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握が可能である。また、本学卒業生を採用した企業に対して企業アンケートを3年に1度実施している。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		本学の運営主体である広島県公立大学法人が行う「法人評価委員会」では、学外の大学関係者だけではなく、産業界からも委員を任命して外部評価を行っている。評価委員会から指摘のあった課題や意見については、毎年、改善や見直し等を行っている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、学部ごとの専門分野も加味した社会での実例をもとにAI等がどのような活用をされているかを中心に扱い、学生が関心を深めることができる講義内容としている。また、学生による授業評価アンケート等を活用し、その内容について必要な見直しを行っている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること		「学生による授業評価アンケート」を学期ごとに実施し、学生の理解度や授業への関心を調査している。また、学部の専門分野に近接した事例をあげるなどして、学生が好奇心を寄せ、より深く学びたくなるような授業づくりを行っている。これにより、数理・データサイエンス・AI分野の知識が学生自身の専門分野や、就職後にも重要であり役立つことであると認識させることができている。